



宮司つし第百十九号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十四年二月二十三日

◇宮司の柴田です。

例年になく厳しい寒さが、続いていきますね。夏の猛暑と冬の厳寒、これも、南極の氷が溶け出している、地球温暖化の現象なんだそうです。二月は、二十九日しかない短い月でもあります。二月は、重要な祭典行事を多く奉仕しなければならぬ月でもあります。二月三日の節分祭、二月十一日の建国祭、二月十七日の祈年祭（きねんさい）、特に祈年祭は、宮司を兼務している田の首八幡宮、さらには六連島八幡宮でも斎行（さいこう）します。◇この祈年祭は、「としごいのまつり」ともいわれまして、秋の稲の収穫が、必ずや豊作である事を祈り、そして確信をし、そのようになるように神様と誓い（うけい、約束の事、予（あらかじ）め、お祝いをする、「予祝（よしゆく）」の祭典行事です。 中高生は予習復習が、大切なのですが、われわれの御先祖様は、予祝を尊（とうと）びました。 その予祝とは、神様に祈りを捧げ、実現できるように努力をする事をお約束する事です。 さらに、その過程にはいかなる事が待ち受けていよ

うとも、必ず神様が、お守り下さる事を信じて、怯（ひる）まずに生活を続けてきたのです。 私は、この「予祝」という祭典行事が、「神信心（かみしんじん）」ですし、言いかえるならば、「日本人の勇氣」だと思えますね。今、日本は、諸事が非常事態で瀬戸際を迎えているといっても過言ではありません。 日本人の勇氣である、「予祝（よしゆく）」「神信心」を取り戻さなければと思えます。

◇一月十二日に、皇居宮殿松の間にて行われた「歌会始（うたかいはじめ）の儀（ぎ）」、昨年一月に発表されたお題は、「岸」でした。 天皇陛下の御製（ぎよせい）と読み、天皇陛下のお詠みになられた和歌を御製（ぎよせい）といひます）は、津波来（こ）し 時の岸辺は 如何なりしと 見下ろす海は 青く静まる

でした。

釜石から宮古にかけて上空から御視察の折の御感嘆と伝えられています。 津波来襲の時を忘れさせるような、青々と静まりかえった海がかえって、大自然の脅威（きょうい）（きょうい）やその恐ろしさを感じさせられます。 昨年の東日本大

震災より十一ヶ月が過ぎようとしています。東日本を壊滅状態にしたあの巨大地震と大津波、そして最悪の原発事故、凄まじい自然の猛威に息をのむばかりでした。 日本国内で、死者、行方不明者の合計数が一万人を突破したのは戦後初めての事だそうです。 東日本大震災は、われわれ日本人に、この風土に生きるために知っておくべき「きまり」を強烈に示してくれたのだと思います。 それは、この日本の風土が、地球のへソに位置していることに起因（きいん）する、天変地異（てんぺんちい）が頻発（ひんぱつ）する列島である事。 そしてそれは、時を選ばずに地震や津波が多発することが宿命である事。 さらに、夏に台風、冬に豪雪という湿潤（しつじゆん）と自然災害をも、もたらす、モンスーン列島である事です。 言いかえれば、この「きまり」は、われわれ日本人に与えられた「不可避（ふかひ）なる運命（さだめ）」の事です。 しかし、その「不可避なる運命」が、農業技術を格段に進歩させ、大自然の脅威なる「天然（てんねん）の無常」が、自然と共生する、花鳥風月を愛（め）でる美意識を育（はぐく）み、豊かな精神文化を養ってきたわけです。 天皇陛下は、「青く静まる」の七文字に、「不可避なる運命」を国民共々に乗り越えて行くこうとお示しになられたのだと感じました。

◇皇后陛下の御歌（みうたと読み、皇后陛下の詠まれた和歌のことです。）は、

帰り来るを 立ちて待てるに 季（とき）のなく 岸とふ文字を 歳時記に見ず

でした。 津波

の押し寄せた岸边に立って、その津波にさらわれた肉親を待っている人には、その日から時間が止まっている、「岸」という季語は、歳時記に見当たらないのだから、と詠まれています。

◇天皇陛下は、狭心症の治療のために御入院されています。 三月十一日の追悼式に御出席になられる御予定ですが、一日も早い御回復を心からお祈り申し上げます。

◇寺田寅彦さんは、「日本人の自然観」の中で、「日本のような変幻きわまりない自然をもつ国で八百万の神々が生まれ崇拜され続けたのは当然で、山も川も樹も一つ一つが神であり人でもある。 それを崇（あが）め従（したが）う事によつてのみ生活が保証される」と書いています。

◇当宮でも、三月十一日の午後二時三十分より、「不可避なる運命」を乗り越え、大震災を決して忘れず、昨年のその日の午後二時四十六分十八秒の前よりも、きつとよくなるんだ、復興するんだと予祝する復興祈願祭を斎行します。 これからも、崇め従う、日本人の勇氣、「神信心」を忘れず生活したいものです。

◇一月の祭典行事報告

▼歳旦祭

*本宮 一月一日 午前八時 祭典後、新年拝賀

*福浦金刀比羅宮 *一月一日午前〇時半

*田の首八幡宮 *一月一日午前一時

*貴布禰神社（老町） *一月一日午前六時半

▼元始祭 *一月三日 午前九時

▼会社安全祈願祭参拝 *一月四日～五日

▼早起会参拝 *一月九日

▼福浦金刀比羅宮初月次祭 *一月十日

▼六連島八幡宮歳旦祭 *一月十一日

▼月次祭 *一月十五日

▼どんど焼き *一月十五日

▼朝粥会 *二月二十一日 ※七草粥を頂きました！

◇二月の祭典行事予定（報告も含む）

▼月次祭 *二月一日、十五日

▼節分祭 *二月三日



▼紀元祭 *二月十一日

▼祈年祭

*本宮 二月十七日

*六連島八幡宮 二月二十五日

*田ノ首八幡宮 二月二十六日

▼朝粥会 *二月二十一日※小豆粥を頂きます！

▼海上自衛隊補給艦「はるな」参拝*二月十日

◇二月の宮司の行事会議等（報告も含む）

▼当宮関係団体

◇維蘇志会役員会 *二月十六日

◇神道会世話人会 *二月二十九日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇山口県神社庁下関支部三役会 *二月六日

◇下関市建国奉祝会役員会 *二月六日

◇山口県神社庁下関支部幹事会 *二月七日

◇下関市建国祭奉仕 *二月十一日

◇山口県神社庁役員会 *二月十二日

◇山口県神社庁支部長事務局長会議*二月十三日

◇下関支部宮司会 *二月十九日

◇山口県神社庁教師研修会*二月二十八日

▼教誨（きょうかい）活動※美称社会復帰促進センター

*二月二十七日（集合男子）

▼講演活動

◇建国青年の集い *二月四日

◇社頭講話研修 *二月二十三日

▼西ロータリークラブ

◇例会 *二月一日、十五日、二十九日

◇市内五R C合同例会 *二月二十一日

▼その他

◇横浜Dena下関ファンの集いの会 *二月十八日

◇彦島八幡宮ソフトボールリーグ 新年会 *二月十四日